令和３年度　学校経営の方針

県立五泉特別支援学校　大竹　嘉則

１　教育目標 「ともにきらめく」の具現化

教育目標の具現化を図るため、児童生徒の学習活動への意欲を高め、取り組んだ結果、「楽しくて満足した」、「やり遂げて充実した」という気持ちの醸成を図ることを大切にします。このような心の有り様（爽快感）をきらめいている状態と考えます。また、ともにきらめくが意味するものは子ども同士はもちろん、子どもと支援者(教師)という意味もあると考えます。

このようなともにきらめく学校生活を具現化することを通して、主体的に生活しようという向上心を育てるとともに、現在及び将来の生活に必要な知識や技能を確かに身に付けていけるようにしていきます。

(1)　学習活動への意欲を高める授業の推進について

児童生徒がきらめくためには、一人一人の学習課題を適切に設定すること、そしてその課題に対して「できる状況」をつくることの２点が求められると考えます。

【できる状況つくり】

課題解決の道付けをしてあげること	**課題への見通し**
⇩	
小さなゴールを設けて、○（できた）をたくさんもらえるようにすること	**スモールステップと強化**
⇩	
ゴール同士の間隔を少しずつ広げて、達成感を大きくしていくこと	**個別の指導計画のPDCAサイクルをまわす**
⇩	
最終的には、障害に応じた必要最小限の支援でもできるようにすること	**ICFに基づいた自立（必要なサポート）**

(2)　現在及び将来の生活に必要な知識や技能の見極めについて

限りある学校生活の中で、現在及び将来の生活に必要な知識や技能を着実に身に付けてもらうため、保護者や関係機関等の意見も参考にしながら、優先順位の高い指導内容を選定・配列します。

２　保護者、地域、関係機関との強い連携

１を具現化していくためには、保護者、地域、関係機関と同一歩調でともに同じ方向に向かっていくことが求められます。そのためには、信頼される学校でなければなりません。学校は、開かれた学校として必要な情報を分かりやすく、タイムリーに発信したり、個別の教育支援計画の策定等を通して、積極的に情報を求めたりするようにしていきます。

また、五泉市という土地柄を大切にし、各方面と親密な関係を築けるよう、積極的に連携を推進します。特に令和３年度４年度は、分校化準備、分校開校の特別な年となります。特に緊密な連携が求められます。

３　五泉・阿賀地域の特別支援学校として、特別支援教育のセンター的役割の推進

特別支援教育のセンター的役割を担うには、特別支援教育に関して幅広く、深い知識や専門的な技能を有しなければなりません。例えば、発達をとらえる心理検査のこと、進路実現に向けてのキャリア教育や職業指導・職場開拓のこと、ユニバーサルデザイン化した授業のこと、重度・重複障害児の活動を保障する医療的ケアのこと、社会性を育むソーシャルスキルトレーニングのことなど。地域でのセンター的役割を担うには、様々な特別支援教育に関する情報を積極的に収集し、その内容を習得し、地域のニーズに応えていく役割を果たしていくことが求められています。